

『江田島“突破、塾～限界突破・難関突破～』実施報告書

1. 概要

国立江田島青少年交流の家では、令和4年度教育事業として、中学校部活動・生徒会を対象に「江田島“突破、塾～限界突破・難関突破～」を開催しました。『江田島湾縦断カッター』と題して通常の学校利用時には行くことのできない特別なコース（交流の家カッター艇庫から江田島湾を縦断して対岸の長瀬海岸をめざす）を漕艇し、往復で約9kmの難関を仲間と共に突破しました。

- 趣 旨 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い部活動や生徒会活動が制限される中学生に、非日常の場での体験を通して、諦めない心や仲間との協力・心の結びつきの大切さ、目標の達成感を感じることで精神力や部の団結力を向上させ、チーム力の底上げを図る。
- 期 日 令和4年11月26日（土）
- 参加人数 11月26日…20名（軟式野球部部）

2. 活動内容

時刻	江田島湾縦断カッター
8:30	受付開始
9:00	開会・事前動画
9:30	艇庫へ移動
10:15	出艇
12:00	長瀬海岸 着 昼食休憩（弁当）
12:45	長瀬海岸 発
14:45	達着・移動 着替え
15:15	アンケート記入 閉会
15:40	解散



廿日市市立大野東中学校 軟式野球部

3. 参加者の声



○団結することで、自分や他の人も楽しめることがわかった。

○自分に厳しくすることで、最終的にすごい達成感を味わうことができた。

○仲間と協力し、よりチーム力を高めることができた。

○ピンチの時は、声を出すなどして助け合いたい。

○きつかったけど、達成感は大きかった。



○カッターを通して、個人の能力と合わせて、声掛け等のチームワークも大切だと思った。

○仲間の強さ、弱さをしるこができた。



○限界突破という名前の通り、無理だという思いになることもあったが、最後までやり遂げることができた。自分で限界を作っていたことを発見できた。



○参加した生徒一人一人が何かを感じられる体験になるべく、非常に教育的な事業であった。



○カッターを通して、個々の限界に迫ること、他社を意識する場を持つことができ、チーム力向上という目的へせまることができた。